

大川村プロジェクトの加速

H26.6～ 村と県で3つの部会を設置し、取り組みを開始

プロジェクト推進のため、県職員を大川村に派遣(H26.9～H28.3、H29.4～ 各1名)

産業振興部会

畜産業（土佐はちきん地鶏・大川黒牛）の振興による雇用の創出

県のメンバー 農業振興部（畜産振興課）、産業振興推進部（計画推進課、地産地消・外商課）、嶺北地域本部

● 土佐はちきん地鶏・大川黒牛の生産・販売の拡大

- ・鶏舎の拡張（増設）、牛舎の改築
- ・食鳥処理・加工施設の建設
- ・新たな加工商品の開発
- ・首都圏等への販路の拡大



成果等

◆主な成果

- ・食鳥処理・加工施設の竣工(H29.7予定)により、**村内で生産から加工までの体制が整う**
(県版HACCP（第3ステージ）認証申請予定)
- ・雇用創出：**14人**
(H21～H28累計(土佐はちきん地鶏、大川黒牛))
- ・食鳥処理場 **新規職員4名採用(H29.4)**
※今後も随時採用予定（総勢10名）
- ・土佐はちきん地鶏出荷羽数の増加
(H20：2.5万羽→H28：6万羽)
- ・県産品商談会にて九州のスーパーと成約
(H29.5：1.6トン)

<県の主な支援> ※地域アクションプランに位置付けてサポート
 ・土佐はちきん地鶏 食鳥処理・加工施設等 197百万円
 ・大川黒牛 生産施設 23百万円

さらなる展開

- 土佐はちきん地鶏
出荷羽数12.5万羽(H31目標)の達成に向け、
・加工品の商品開発
・精肉や加工品の新たな販路開拓に向け、営業を強化
(地産外商公社も強力にサポート)
- 大川黒牛
・増頭に向け、繁殖から肥育の完全な一貫体制

強化した生産体制により外商を加速

生活支援部会

生活交通や生活物資等の確保の仕組みづくりによる生活環境の充実

県のメンバー 中山間振興・交通部（中山間地域対策課）、嶺北地域本部

● 食の確保

- ・小中学校、保育園、高齢者等への給配食
- ・地産地消による食材供給のシステムづくり



● 移動手段・生活物資の確保（買い物支援）

- ・移動手段の充実、生活用品・農作物等の配達・集荷等



◆主な成果

- 集落活動センターの開設(H28.3)
- ・集落活動センターでの物販・飲食等の実施
- ・小中学校、保育園、高齢者等への給配食の実施
※地元野菜の食材利用率
H28.4：13.7%→H28年度平均：35.4%

<県の主な支援>
 ・集落活動センターの立ち上げ支援 23百万円



- ・集落活動センターの活動のさらなる充実
- ・村内の移動手段や買い物支援等の仕組みづくり

生活環境をさらに充実

観光・交流部会

地域資源を活用した観光交流施策による観光振興・交流人口の拡大

県のメンバー 観光振興部（地域観光課）、嶺北地域本部

● 新たな観光コンテンツの構築

- ・山岳、湖面等の地域資源を活用した観光イベント・ツアー等の実施や合宿等の誘致

● 既存のネットワークを生かした交流人口の拡大

- ・どんぐり銀行、ふるさと留学、謝肉祭等の活用による情報発信



● 大川村の新たなファンづくり

- ・大学等との連携

◆主な成果

- ・白滝の里観光交流基本構想の策定(H29.3)
※今後、構想に基づき推進

<県の主な支援> ※地域アクションプランに位置付けてサポート
 ・観光商品の磨き上げ 5百万円
(山岳観光、早明浦ダム湖面活用、ロゲイニング等)

- ・観光人材の育成・確保
- ・観光商品の磨き上げ・造成、販売
(山岳観光、企業向け研修、早明浦ダム湖を生かしたウォーター・サイクルスポーツ等)

本格展開に向け、取り組みを加速

- ◆県外からの移住者数16組19人(H25～H28累計)
※移住者を含む転入者数 44人(同上)

- ◆15歳未満人口(年少人口割合) 各年10月時点の数値
H22：34人(8.3%) → H28：39人(10.1%)

見えてきた明るい兆しを確かなものに(人口400人を維持)

雇用の創出、交流人口の拡大

若者の定着、移住者の増加